

人生100年時代のシニア人材活用

わが社自慢のシニア人材、60歳からのキャリアを応援 取材執筆 馬場雅子

「円滑に仕事をするには、経験や職歴にこだわらず、謙虚であるべき」

小林正明氏（株式会社シニア経理財務・派遣スタッフ）

経理財務のプロフェッショナル人材として株式会社シニア経理財務から建築設備設計会社に派遣されている小林正明氏（73歳）。取材前の挨拶で、小林氏から手渡されたのは派遣先の社名の入った名刺。派遣スタッフでありながら、顧客でもある派遣先から高い信頼を寄せられていることが窺える。シニアが派遣先から信頼され、長く働き続ける秘訣とは何か、小林氏の働き方から探ってみよう。

「60歳以上、生涯現役」の募集「コピー」

小林さんは、株式会社シニア経理財務の派遣スタッフ第1号として6年間、建築設備設計会社の経理を任されています。派遣で働くことと思っただけのきっかけや、就業スタートまでの経緯をお聞かせいただけますか。

「派遣の仕事は、2013年の6月頃、シニア経理財務の募集広告が朝日新聞に掲載しているのを見て

応募したのがきっかけです。広告には「60歳以上、生涯現役」と書いてあったと思います。派遣で働くことには、以前から興味がありましたし、そのコピーに魅かれました。女房からも勧められ、すぐ履歴書を購入し、書いて郵送しました（笑）。63歳で定年退職後、色々求人を探しましたが、ハローワークではほとんど仕事は見つかりませんでしたね。」

「派遣で働くまで数年間ほどブランクがあったようですが、その期間、お仕事はされていなかった

のですか。

「定年退職後半年間、雇用保険をもらいながら、求人探しをしていました。お弁当の宅配の求人募集が目に入り、説明会に行ってみました。何十人も応募者が来ていていましたが、面接を受けてすぐ採用になりました。業務委託という形で、自分の車で30件ほどの夕食の宅配を4年間位続けました。」

「経理のお仕事と宅配とは、仕事内容もかなり違うと思いますが、問題点や違和感はなかったのでしょうか。」

「長野県にある子会社に単身赴任で8年間、経理を含めた総務的な仕事をしていました。地方では



小林正明氏

いように気を配りました。」

仕事のリズムと健康管理

「シニアには上から目線の言動を取る人がいますが、派遣先では、今までの経験から、こうやった方がいいとアドバイスされたことがありますか。」

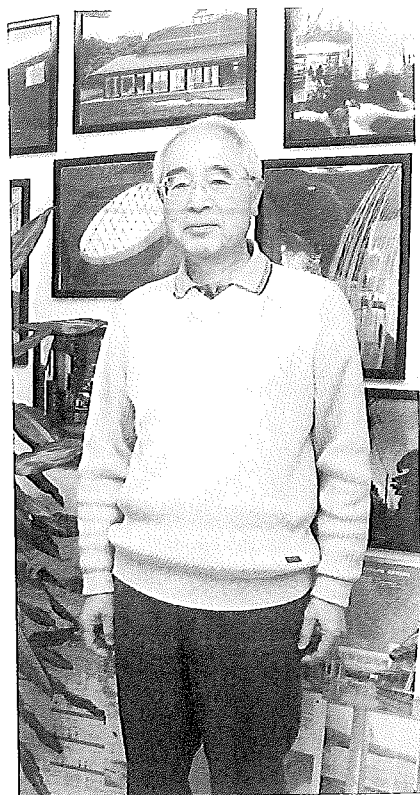
「大会社での役職経験者は、実務を部下に任せての管理業務が主な仕事になると思います。しかし、小さい会社では人員的に一人ですべてをこなさなければなりません。幸いにも、3回子会社に出向したので、その経験が今は生きています。派遣先の社長からは、『何でも言ったださい』と言われませんが、この規模で管理制度も確立しているのであまり口出しすることはない。何か聞かれたら答えるようにしています。」

若い社員は、自分の会社しか知らず、自社の良さが分からないので、時々、この会社は労働環境も良くいい会社だと話しています。自分が経験した外の社会のことを話すことが、少しは役に立っているのかなと思います。」

「半年間の仕事、という約束が6年以上の長期間になっていますが、仕事を長く続ける秘訣などがあれば教えてくださいませんか。」

「人生100歳という流れの中で、外に出て働けば、刺激や緊張感があります。ですから『もう、来なくていいよ』と言われたい限り、こちらの会社で働きたいと思っています。長く勤めるには、決まったリズムで仕事をするということと健康管理が大切です。私は週1度ジムに通いトレーニングをしています。また、シニアが派遣で働く場合、あまりわがままを言わず、謙虚に自分のできることをきちんとやること、今までやってきたことにこだわらないことです。年を取ると仕事もスローになりますから、無理をせず自分のできる仕事をするのが、長続きの秘訣ではないかと思っています。これから後に続くシニアの方も是非長く勤めて欲しいと思っています。」

小林氏のような派遣先から「辞めたら困る」と言われるシニア人材が今後ますます増えて、活躍の場を広げていくことを期待したい。



健康管理のため、週に1度はジムでトレーニング!

「それは考えませんでした。2014年の1月9日にシニア経

新入社員の気持ちで

「シニア経理財務に登録してから半年間、派遣会社から連絡もなかったとのことですが、他の派遣会社に応募してみようとは思いませんでしたか。」

「それは考えませんでした。2014年の1月9日にシニア経

「それは考えませんでした。2014年の1月9日にシニア経